

(第75回) プロジェクト・制度評価分科会の評価結果について



NO.		2-7			
事業名		木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業（中間評価） 新エネルギー部			
委員構成、ポートフォリオ		委員名	NEDO委員歴		
			前身事業	事前評価	中間評価
<p>バイオマス発電は、我が国のエネルギー多様化や温暖化対策等に貢献するエネルギーであるが、燃料の長期安定的な供給や燃料コストに課題がある。本事業は、燃料利用を目的とした早生樹等の育林実証、燃料の製造・輸送の高効率化に伴うコスト低減、チップ・ペレットの品質規格策定を実施し、持続可能なかたちで既存の林業と共生した、木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システムの構築と商慣行の定着を目指すものである。委員選定にあたっては、前身事業の評価委員に加えて、本事業の要素技術の専門家、社会実装を視野に入れて、コンサルタントとユーザ有識者を選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分科会長は、バイオマスを中心とした技術経済評価の有識者。バイオマス全般に幅広い知識と知見を有している。前身事業の終了時評価に引き続きご担当いただいた。 分科会長代理は、バイオマスに関連した技術と社会実装の研究者。本プロジェクトの技術検討委員長。 他の委員は、バイオマスエネルギー活用コンサルタント。早生樹を中心とした森林科学・造林学の専門家。林業工学・森林利用学の専門家。森林問題や林業問題に関するコンサルタント。バイオマス発電事業および燃料製造事業者。 		山本博巳 分科会長) 一般財団法人 電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 ENIC 研究部門 上席研究員	○		
		石井一英 分科会長代理) 北海道大学 大学院工学研究院 教授	○		
		石井伸彦 委員) みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 サステナビリティコンサルティング第2部 上席主任コンサルタント			
		糟谷信彦 委員) 京都府立大学 生命環境科学研究科 助教			
		鈴木保志 委員) 高知大学 教育研究部 自然科学系農学部 教授			
		長野麻子 委員) 株式会社モリアゲ 代表取締役			
		永野正朗 委員) 株式会社グリーン・エネルギー研究所 代表取締役社長			
評価コメント					
肯定的意見		今後への提言			
<ul style="list-style-type: none"> アウトカム目標は、時間軸及び数値として定量的かつチャレンジングな目標が設定されており、根拠もエビデンスに基づき妥当である。また、燃料材取引価格3割減と品質規格の2つの業界団体による推奨については、達成の見込みがあると判断できる。達成に向けて、6つの気候区分毎に適した早生樹育林の実証、燃料材や設備コストの低減、燃料材の品質規格の策定についての活動や取り組みが網羅され、適切な道筋が描けていると評価する。 アウトプット目標は、本事業の成果を社会実装に繋げる為に、明確なコスト目標を設定し原料生産、燃料製造、製品品質評価のそれぞれのプロセスにおける課題解決に取り組んでいる点は評価できる。また、採択された事業者においてもおおむね目標成果およびスケジュールに関して順調に事業が推進されていることは評価に値する。 林野庁との連携をはじめ、採択された事業者間の交流もNEDOがイニシアティブを発揮していることは、公的な補助事業の運営主体としての重要な役割を發揮していると評価できる。 		<ul style="list-style-type: none"> アウトカム目標の達成に向けて、地域資源のバイオマスを利用することの価値やエネルギー安全保障上の課題を解決することの意義を地方自治体や関連企業等に伝え、機運を高めていくことが望まれる。 エネルギー情勢およびバイオマス情勢（林業等の周辺産業等）の変化、技術開発主体（事業者）が想定した出口や利益構造の前提条件が変化する可能性があることに留意して、NEDOとしてのモニタリングや出口のサポートを行うことも重要ではないかと考える。 本事業において得られた実証データやコスト削減の要因などの知見について、成功例とともに失敗例も合わせて明確にして情報発信を行い、効率的な横展開を図っていく必要があるだろう。FIT制度（固定価格買取制度）終了後の地域の森づくりの事業性判断の根拠にも繋がると考える。 持続可能性の担保と現場での円滑な実装に向けて、森林生態系への影響、外来種の侵略性、地力の持続性、皆伐による土砂流出など、エネルギーの森導入による林地保全の観点からのインパクト評価に有益なデータの収集・整理が望まれる。 			